

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

ここでは、宮崎県を代表するこれらの作家の作品を紹介するとともに、小林市生まれの小野彦三郎による油彩画と、そのもとになったスケッチ等を併せて紹介するコーナー展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886～1954	栗	1946-54 (昭和21-29)	36.5×52.1	水彩
2	塩月 桃甫	1886～1954	作品5(台湾の娘)	1942(昭和17)頃	51.0×34.2	水彩
3	塩月 桃甫	1886～1954	少女像	1953(昭和28)	41.0×32.1	油彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	黒猫と少女	1950(昭和25)頃	73.0×60.6	油彩
5	山田 新一	1899～1991	椅子に凭るY嬢	1929(昭和4)	54.6×45.5	油彩
6	山田 新一	1899～1991	マルセーユ	1965(昭和40)	130.2×97.0	油彩
7	吉田 敏	1915～1965	田舎道	1964(昭和39)	76.8×54.4	水彩
8	雨田 正	1914～1995	人物	1975(昭和50)	64.8×49.9	水彩
9	雨田 正	1914～1995	日南海岸	1983(昭和58)	28.5×38.0	水彩
10	山内 多門	1878～1932	天童寺より「伽藍」	1922(大正11)	60.0×178.8	日本画
11	山内 多門	1878～1932	春景山水 菊慈童 秋景山水	1912(大正元)	各106.6×35.1	日本画
12	益田 玉城	1881～1955	落椿之図	1909(明治42)頃	199.5×70.3	日本画
13	益田 玉城	1881～1955	山宿の春	不明	124.1×41.5	日本画
14	川端 玉章	1842～1913	梅錦鶏鳥図	不明	87.5×56.4	日本画
15	小野 彦三郎	1912～1971	網を干す(南仏にて)	1954(昭和29)	73.0×60.6	油彩
16	小野 彦三郎	1912～1971	リンドソウにて	1955(昭和30)	72.7×60.0	油彩
17	小野 彦三郎	1912～1971	静浦	1960(昭和35)頃	91.0×72.8	油彩
18	小野 彦三郎	1912～1971	岬	1961(昭和36)	162.3×97.3	油彩
19	小野 彦三郎	1912～1971	はだれ(湯沢)	不明	72.7×60.6	油彩
20	小野 彦三郎	1912～1971	妙高	不明	60.6×72.7	油彩
21	小野 彦三郎	1912～1971	妙高	1967(昭和42)	130.3×80.6	油彩